

本会の動き

第27回化学工学会学生発表会てんまつ記

第27回化学工学会学生発表会は2025年3月8日(土)にオンラインで開催された。本発表会は、若者の理科離れを食い止め、魅力ある理科教育を推進する方策の一環として、大学4年までの学生、高専生(専攻科生含む)、ならびに高校生を対象とした発表会となっている。学びの環境に応じ、実験、観察、数値計算等をとおして得られた結果を整理して発表することで有為な人材を育成することを目的としている。すべて口頭発表であることにも特徴があり、異なる環境で学んだ成果を表現する場となっている。1999年東北支部で開催された第1回に端を発し、2004年からは東西2地区での同日開催となり、全国各地から多くの学生・生徒が発表する会として発展していった。コロナ禍の影響を受け、2021年(第23回)以降はオンライン開催となり、その後は東西の区別なくオンラインでの開催が継続されている。オンライン化により、遠方から、あるいは同一校からの大人数参加でも旅費を心配することなく参加できるようになっている。

運営側の視点では、オンライン化すると現地会場をアレンジする世話人が不要になることから、第23回以降は未来人材育成委員会(のうち学生発表担当)の委員が主力となり実行委員会を運営している。近年、発表会場が10を超えることも多く、発表会当日は学生アルバイトの協力により成り立っている。第27回においては、学会本部事務局が本部会議室および事務室にパソコンを並べ、11のオンライン会場分のZoomを立ち上げ、学生アルバイトは、全国各地から各会場のタイムキーパー業務などにあたった。昨今の物価高騰(大会運営費の上昇)や賃金上昇の影響もあり、第27回からは高校生・高専1～3年生にも参加費をお支払いいただく判断に至った。負担軽減の措置として、早期参加予約のほか団体割引などの策を講じた。

大会の広報活動として2024年10月に大会ホームページをEASPの利用により立ち上げた。それと同時期に、各種学会イベントへの参加経験がある高校教員やSSH経験校へ案内チラシを送付することなどの呼びかけも行った。発表申込の締切を当初の12月6日(金)から1週間延ばした。重複申込みや発表辞退を除き最終的な発表件数は266件となった。前大会に比べ、およそ2割減となったが、会期中に何か突発的なトラブルが発生しても柔軟に対応できる適正数に収束したものと捉えている。

発表件数減少の要因としては、今回から研究領域を「化学工学、エネルギー、資源、バイオテクノロジー、物理化学、有機化学、無機化学、計算化学」の8分野に限定したことがあげられる。発表件数の減少に伴い、オンライン会場数も前回大会に比べ4会場減少した。高校生の発表が増えることは喜ばしいことであるが、そ

の一方で、同一の指導教員からの発表件数が増えるほど、発表時間の重複を回避するための作業が複雑になり、プログラム編成が困難になる。

当日の大会運営に向けては、参加者および運営担当者に対して各種マニュアルを事前配布した。高校生など、初めてオンライン発表に臨む参加者に配慮し、発表会前日までの5日間に接続テスト期間を設けた。

発表者は7分間で研究の意義や、どのような考えに基づき、どのようなアプローチで結果・成果を出したかを口頭で説明したあと、聴講者や座長からの(場合によっては厳しめの)質疑に答えていた。発表経験が必ずしも十分ではない学部生、高専生、高校生であるが、事前練習の成果もあり、ほとんどは支障なくオンラインツールを使いこなしていた。

午前の一般発表の終了後、本会CSR委員会委員でもある九州大学の中川究也教授にご講演を依頼した。高校生をおもなターゲットとして、『化学工学ってどんな学問?』の演題で、化学工学を分かりやすくご紹介いただいた。化学工学があらゆる分野で役に立つ学問であると感じ取った高校生にはぜひ、化学工学とその関連分野への道を選択していただきたい。続く『大学紹介企画』では、東京農工大学、九州大学、午後の一般発表終了後には関西大学、茨城大学、東北大学より化学工学関連の学部学科(一部、大学院の専攻を含む)をご紹介いただいた。高校生・高専生の進路選択の一助になれば幸いである。

これまでは、特別講演終了後に表彰審査結果を発表することを想定し大会プログラムを編成していたが、各地に点在する審査員から審査結果を遅延なく収集し、それを誤りなく集計するには特別講演枠を超える時間を要することから、本大会からは審査結果を大会の翌週以降にホームページ上に公開することを当初よりアナウンスした。「いかに自分で考え自分の力で発想し研究を展開しているか、いかに自分の研究としてアピールできているか」について審査することとし、優秀賞は文字どおり優れたプレゼンテーションをした発表に与えられる賞で、36件の発表に授与された。内5件が高校生の発表であった。また、今回より奨励賞にも授与基準を定め、その基準を満たした発表にのみ授与するように変更した。高校生・高専生1～3年生の70件の発表には奨励賞が贈られた。各賞の賞状は、後日、受賞者に郵送された。各賞の受賞者と発表題目は、次ページ以降に一覧で記す。

参加者、座長兼審査員をお引き受けいただいた先生方、学生アルバイト、本部事務局など、多くの皆様のご協力で5回目のオンライン学生発表会を無事に開催できました。皆様には、委員会の手不際をお詫びしつつ、深く感謝いたします。また、今回発表いただきました学生や生徒の皆様方の今後のご発展をお祈りし、てんまつ記といたします。

なお、第28回化学工学会学生発表会は2026年3月7日(土)に、オンラインで開催する予定です。多くの大学学部生、高専生(専攻科生含む)、ならびに高校生に発表いただけることを期待します。

優 秀 賞

注：○は登壇者であることを示す

〔熊大〕○(大)小田翔太・(大)近藤澄弥・中村有沙・(正)百瀬 健
「高温超臨界 CO₂/H₂ 中における有機金属錯体の溶解度と拡散係数の同時推定手法の構築」

〔静大工〕○(大)二瓶混介・(正)村上裕哉
「流路内に封入した複数粒子の運動の解析によるソフトセンサー開発」

〔神戸大工〕○(大)後藤涼平・(学)野口伊吹・(正)市橋祐一
「ベンゼン気相接触酸化反応における Cu 担持 HZSM-5 触媒への助触媒添加効果」

〔横国大理工〕○(学)秋田修平・〔横国大工〕(正)三角隆太
〔住友金属鉱山〕(法)土岡和彦
「連続液注入による中和反応の噴流混合メカニズムの解明」

〔京大工〕○(大)高橋颯太・(学)周 子揚・(正)藤埴大裕・
(正)河瀬元明

「ベンゾニトリル水素化反応用炭素担持銅系触媒の開発」

〔静大工〕○(学)中澤 優・〔静大院工〕(学)山田祐生・
〔静大工〕(正)赤間 弘・〔静大院工〕(正)渡部 綾・(正)福原長寿
「多段連結型ガス処理システムによる CO₂ の変換効率と資源化特性」

〔神戸大工〕○(学)藤澤 拓・〔神戸大院科技イノベ／先端膜工学研究セ〕(正)吉岡朋久・(正)中川敬三・(正)北河 享・

〔神戸大院工／先端膜工学研究セ〕(正)岡本泰直・(正)松岡 淳・
(正)神尾英治・(正)松山秀人

「分子シミュレーションによる多孔性 TiO₂-SiO₂ ガス分離膜モデルの作製と構造評価」

〔神戸大工／先端膜工学研究セ〕○(学)森 晴・
〔神戸大院工／先端膜工学研究セ〕(正)神尾英治・(正)松岡 淳・
〔神戸大院科技イノベ／先端膜工学研究セ〕(正)中川敬三・
(正)吉岡朋久・〔神戸大院工／先端膜工学研究セ〕(正)松山秀人
「Tetra-PEG イオンゲル CO₂ 分離機能層を有する薄膜複合中空糸膜の開発」

〔和歌山高専〕○(専4)楠山紗依・林 和幸・花田雅司・
(正)岸本 昇

「炭酸カルシウムによる水溶液中のマンガン捕集機構の検討」

〔農工大工〕○(大)佐々木健・(正)大橋秀伯
「バナジウムレドックスフロー電池における大気圧プラズマグラフト重合法を用いた代替膜の開発」

〔芝浦工大工〕○(大)清水優芳・(正)野村幹弘・
〔AGH U. Sci. and Tech.〕Moździe Marcin・Brus Grzegorz・

〔安田女大〕(正)大川原真一
「セラミック多孔体を用いた膜反応器での二酸化炭素メタン化」

〔信州大工〕○(大)蔡 優真・
〔信州大 RISM／信州大工〕(正)佐伯大輔・〔信州大工〕奥村幸久
「エステル結合を主鎖の一部に有するポリアミドナノろ過膜への加水分解処理の影響」

〔法政大生命〕○(学)由良健翔・
〔法政大院理工／日産自動車〕(学)筒井 学・

〔法政大生命〕(正)北村研太・(正)森 隆昌
「リチウムイオン電池電極膜塗工後の粒子構造形成に関する基礎研究」

〔東北大工〕○(学)村元貴哉・〔東北大多元研〕(正)岩瀬和至・

〔東北大-学際研〕(正)筈居高明
「銅触媒合成時の pH 制御が CO₂ 還元活性に与える影響」

〔九大工〕○(大)湧稲國安貴・〔九大院工〕(学)佐藤弘基・
(学)江藤佑樹・宗マグナス・(正)矢野武尊・(正)浅野周作・
(正)井上 元

「機械学習による全固体電池の電池性能予測モデルの構築と最適構造設計」

〔阿南高専〕○(専4)鳥羽咲希・香西貴典・藤原健志・(正)鄭 涛・
釜野 勝・(正)小西智也

「Er³⁺ 添加 NaYF₄ ナノ蛍光体の水熱合成条件と発光特性」

〔茨城大工〕○(大)堀口菜緒・〔茨城大院理工〕安部遥音・
(正)小林芳男・〔茨城大産連〕相馬憲一・

〔茨城大院理工〕(正)山内紀子
「表面修飾ナノフィラーがポリイミドフィルムの絶縁破壊電圧に与える影響」

〔阿南高専〕○(専4)徳永夢叶・香西孝典・藤原健志・(正)鄭 涛・
釜野 勝・(正)小西智也

「Cu⁺, Sn²⁺ 添加混合アニオンガラスの作製と光物性」

〔能代高校〕○(高)佐々木琉惺・○(高)唐土太遙・○(高)渡辺瑞生・
(論)松本知憲

「保冷剤の保冷時間の向上」

〔津山高専〕○(高)長澤有祐・○(高)田中麻友・○(高)下山 凜・
○(高)武田真佳・(論)矢野雄暉

「ゼオライト担持光触媒を用いた磁場効果による分解反応の高効率化の検討」

〔阪公大高専〕○(専4)赤林郁哉・(正)平林大介・
〔阪公大院工〕(正)野村俊之

「植物病原菌の防除と環境微生物の保護を両立した農業原体の微粒子化」

〔名大工〕○(学)奥田素晴・〔名大院工〕(正)神田英輝・(正)山本徹也
「氷中での高分子ナノ粒子の合成」

〔阪府大工〕○(大)佐藤由悟・〔阪公大院工〕(正)野村俊之
「農業封入生分解性キャリア粒子の合成と防除効果」

〔茨城大工〕○(大)渡邊美月・〔福島大農〕尾形 慎・
〔茨城大院理工〕(正)小林芳男・(正)山内紀子

「ウイルス検出を目的とした糖鎖および金ナノ粒子固定化蛍光ポリマー粒子の作製」

〔福岡工大〕○(学)花田航輝・(学)前田修斗・(正)松山 清
「3D プリンター技術と超臨界含浸法による金属構造体の調製」

〔茨城大工〕○(大)小野利佳子・〔茨城大院理工〕(正)小林芳男・
(正)山内紀子

「医療応用に向けた水溶液中でのアニオン性ヒドロゲル粒子の作製」

〔佐世保高専〕○(専4)芝真朱咲・(正)森山幸祐
「人工触媒を用いた高分子水溶液のゲル形成」

〔鹿大工〕○(学)西村 晃・松元駿知・小原咲紀・
〔鹿大院理工〕(正)吉田昌弘・(正)武井孝行

「疎水性薬剤徐放担体としてのゼラチンに導入する疎水基の構造の違いが疎水性薬剤モデルの吸着および放出に与える影響」

〔玉川学園高〕○(高)伊藤瑠哉・(論)木内美紀子
「アロエの成分分析」

〔東北大多元研〕○(学)石川朋佳・柴田暁貴・笠井 均・
 (正)岡 弘樹
 「抗菌活性を有する有機半導体ポリマーナノ粒子の創製」
 〔生野高〕○(高)長浜周臥・○(高)濱宗二郎・○(高)富田皓太・
 ○(高)富田啓太・(論)信谷 敦
 「蚊の産卵条件」
 〔神戸大〕○(大)河合ななみ・富永将大・(正)近藤昭彦・
 (正)石井 純
 「高性能な酵母遺伝子スイッチの開発:転写漏出を防ぐ手法の確立」
 〔玉川学園高〕○(高)清田桃子・(論)木内美紀子
 「緑茶の抽出条件による成分比較」
 〔筑波大〕○(大)久米遥香・An Guangqi・(正)Yang Yingnan
 「浮遊型複合光触媒材料を用いた *Microcystis aeruginosa* の不活化」
 〔筑波大〕○(大)吉井彩花・An Guangqi・(正)Yang Yingnan
 「太陽光を利用した固定化光触媒システムによる大腸菌の高度不活性化処理」
 〔筑波大〕○(大)大城 駿・Zhang Hongjain・(正)Yang Yingnan
 「ZnIn₂S₄をベースとした新規光触媒の開発」

奨 励 賞

〔能代高〕○(高)伊東圭悟・○(高)嵯峨白雪・○(高)佐藤結太・
 (論)松本知憲
 「ビスマス結晶生成の再現性を高める」
 〔川越高〕○(高)野坂康橙・○(高)吉野遥人・○(高)松本郁真・
 (高)石田鴻志・(高)藤野友輔・(高)平田龍一郎・(論)木村和憲
 「高校化学実験室でできる水中の色素移動挙動の測定」
 〔千里高〕○(高)太田智貴・○(高)今井僚祐・○(高)西村青芭・
 ○(高)川端大世・(論)西澤淳夫
 「タオル長持ち計画！」
 〔立川高〕(論)亀井善之・(高)榊原 侑・○(高)福島春和・
 ○(高)松岡瑠美・○(高)横川沙也子
 「NaCl水溶液にAgClの沈殿ができる濃度の定量分析は可能か」
 〔玉島高〕○(高)西谷内詩梨・○(高)川上佳乃・(高)小坂はるか・
 (論)大下英一
 「凝固点降下法によるヒドロキシ化合物の分子量測定」
 〔韭崎高〕○(高)志村優斗・○(高)岩下陽翔・(論)竹田夏実
 「K村にはリアカーはないのか～炎色反応の不思議に迫る～」
 〔天王寺高〕○(高)村上隼都・○(高)上坂陸斗・○(高)草深遥香・
 ○(高)古谷 楓・(論)尾崎祐介
 「ビスマス結晶の生成過程の探索」
 〔七尾高〕○(高)浅田遥音・○(高)塩崎隆登・○(高)正武田大悟・
 ○(高)三柳凜乃・(論)芳網健太郎
 「尿素の散布量と融解した氷の質量の関係について」
 〔天王寺高〕○(高)庄司樹生・○(高)足立芽依・○(高)長谷川心渚・
 ○(高)渡邊 望・(論)福永直也
 「濃度分布の偏りをなくした溶液の凍結方法」
 〔北見藤高〕(高)植原千夏・○(高)高山葉月・○(高)瀬口琴菜・
 (論)宇都由美子
 「万能指示薬による試験管の中の虹色作成について」

〔岐山高〕○(学)芝田奏介・○(高)小澤孝輔・○(高)辻 雄仁・
 ○(高)山内涼輔・(論)川根真也
 「ゼオライトを用いた廃プラスチックの燃料資源化」
 〔天王寺高〕○(高)近藤心悟・○(高)伊藤優志・○(高)南里友哉・
 ○(高)安川 拓・(論)尾崎祐介
 「うどんのコシを強くするには」
 〔呉高専〕○(専3)滝口柚都・○(専3)堀 佑梧・(専3)山根蒼生・
 (専3)藤原伶夏・(専3)森山達也・(正)及川栄作
 「アルカリ水濃度の違いによる還元的FBC法による溶存水素生成の経時変化」
 〔並木中等〕○(高)山田悠司・(論)粉川雄一郎
 「モリブデンの発色」
 〔下関西高〕○(高)山岡 幌・○(高)市原彩華・○(高)小林桃子・
 ○(高)堀本 京・○(高)宮崎 遥・(論)岡田省吾
 「ダイラタンシー流体に対する擬塑性流体の影響」
 〔呉高専〕○(専3)山根蒼生・○(専3)藤原伶夏・(専3)滝口柚都・
 (専3)堀 佑梧・(専3)森山達也・(正)及川栄作
 「還元的FBC法により生成した水素水を用いたメタノール燃料電池発電」
 〔水戸一高〕○(高)菊池慧一郎・(論)櫛田雅彦
 「ハイブリッド型光触媒の開発」
 〔水戸一高〕○(高)瀬戸丸七桜・○(高)五島ゆりこ・(高)鬼澤和瑚・
 (論)櫛田雅彦
 「金属担持光触媒の性能変化に関する研究」
 〔天王寺高〕○(高)宮武真吾・○(高)上迫大翔・○(高)高濱匡史・
 ○(高)古川尚輝・(論)福永直也
 「ルミノールの構造変化が化学発光に及ぼす影響」
 〔生野高〕○(高)埴岡くるみ・○(高)奥谷莉帆・○(高)梶本あかり・
 ○(高)山本雪乃・(論)大西 温
 「教科書にない空白の20℃に迫る！～エタノールの脱水～」
 〔生野高〕○(高)小玉絢斗・○(高)平尾颯麻・○(高)泉森奏汰・
 ○(高)井関 駆・○(高)角谷美空・(論)大西 温
 「アセトンを合成するためのより良い材料」
 〔横手高〕○(高)藤原優奈・○(高)佐藤白峰・○(高)和泉亜里紗・
 ○(高)虻川堅汰・○(高)細川秀翔・(論)細谷 進・(論)岸 嘉之
 「プラントチック～野菜からプラスチックを作る～」
 〔磐城高〕○(高)岩瀬遙佑・○(高)水野谷陸・(高)前橋賢人・
 (高)大澤佑真・(高)松本慶大・(論)眞壁孝介
 「COD測定法における硝酸銀の代替としてのハイドロタルサイトの検討」
 〔韭崎高〕○(高)塚原帆南・○(高)小林健真・(論)竹田夏実
 「コアンダ効果の堤防利用」
 〔天王寺高〕○(高)本間 礼・○(高)浅木志篤・○(高)梶谷亮介・
 ○(高)柳田和樹・(論)黒石貴志
 「バイオエタノールの生成と効率化」
 〔能代高校〕○(高)工藤 奏・○(高)毛利遼太郎・○(高)大山美織・
 ○(高)和田真依・(論)松本知憲
 「黒松ぼっくりの活用方法」
 〔天王寺高〕○(高)成尾留奈・○(高)千原怜奈・○(高)守谷啓吾・
 ○(高)山口詩渚・○(高)横山 慧・(論)岩井晴彦

「お茶におけるタンニン・カフェインの抽出量と時間の関係」
 [千里高]○(高)岩本勘佑・○(高)原田知明・○(高)山本史樹・
 (論)西澤淳夫
 「環境に優しい高電圧な電池制作」
 [生野高]○(高)伊東愛実・○(高)藤澤 心・○(高)三谷蒼天・
 ○(高)村上裕汰・(論)大西 温
 「金属樹の形の制御」
 [福岡城東高]○(高)吉瀬悠希・(論)佐々木光将
 「微生物電池の発電性能の向上に向けて」
 [磐城高]○(高)種邑 颯・○(高)石橋 樹・(高)土屋侑理・
 (高)青山蒼空・(高)伊知川雄祐・(論)眞壁孝介
 「ペロブスカイト太陽電池に関する基礎研究」
 [熊本高]○(高)高橋咲耶・○(高)茂木 環・○(高)本田隆浩・
 ○(高)中熊奏斗・(論)早野仁朗
 「ゲル空気マグネシウム電池の開発と実用化」
 [東京高専]○(専3)伊藤 真・○(専3)齊藤匡悟・
 ○(専3)成田麗丘・○(専3)山本左右吉・(正)城石英伸
 「太陽熱により再生できる空気亜鉛一次電池の開発」
 [天王寺高]○(高)松下裕佳・○(高)江藤千花・○(高)中村拓敬・
 ○(高)細谷亮太・(論)黒石貴志
 「塩橋をつかった濃淡電池の作用の分析」
 [天王寺高]○(高)王 孜如・○(高)武田 航・○(高)松島陽菜・
 ○(高)村上優弥・(論)黒石貴志
 「コンクリートの含水量と強度の関係」
 [秋田高](論)金野寛之・○(高)金 優剛・○(高)大森一真・
 ○(高)河原田優茉・○(高)木村 心・○(高)中川遥斗・
 ○(高)中村理人
 「ハイドロキシアパタイトの合成」
 [生野高]○(高)田中志歩・○(高)島貫菜々・○(高)尾崎美月・
 (論)信谷 敦
 「クモの糸は水に濡れると縮む」
 [益田高]○(高)藤原織冬・○(高)和田理音・○(高)竹内璃空・
 (論)戸田雄太
 「ケイ酸ナトリウム水溶液の濃度によるケイ酸膜の成長速度とサイ
 ズへの影響」
 [磐城高]○(高)石川泰地・○(高)安島暖人・(高)草野遥紀・
 (高)草野楓季・(高)関内瑞輝・(論)眞壁孝介
 「アセチルグルコマンナンの合成と成型方法の研究」
 [生野高]○(高)小池優太・○(高)山科宗平・○(高)當山豪熙・
 ○(高)山下洸太・(論)日比紀孝・(論)吉田禎張
 「高吸水性ポリマーの再利用方法」
 [並木中等]○(高)松田菜央・(論)粉川雄一郎
 「PVA・ヨウ素を用いた「究極の黒」の開発」
 [天王寺高]○(高)森岡真咲人・○(高)磯田一牙・○(高)高森悠太・
 ○(高)西岡湊玖・(論)福永直也
 「汚れに強く、繊維にやさしい石鹸の製作」
 [広島高]○(高)道上京香・(論)柳井谷拓馬
 「実用的なエコカイロの改良～添加物を用いた酢酸ナトリウムの結
 晶化熱の研究～」
 [生野高]○(高)古川暁音・○(高)八尾萌々香・○(高)廣井知花・

○(高)酒井瑠菜・(論)日比紀孝・(論)吉田禎張
 「日焼け止めクリームの最適量」
 [生野高]○(高)小林実咲・○(高)天野香々花・○(高)小久保陽世・
 (論)大西 温
 「ガラスフュージングに対する学際的なアプローチ」
 [栃木高]○(高)篠崎ニキータ二季也・○(高)向田篤史・
 (論)阿部友樹
 「化学反応における金属の表面積に関する研究」
 [四日市高]○(高)竹谷佳記・(論)森 綾直
 「接着強度と成分の量的関係」
 [土浦一高]○(高)荻内智悠・○(高)金子拓生・○(高)斎藤悠史・
 ○(高)上津原聖介・(論)増田 智
 「身近な酸を用いたポリアニリンの電解合成と複合繊維材料化の試み」
 [七尾高]○(高)木元真央・○(高)新木慎侑子・○(高)村田咲笑・
 ○(高)矢田菜音・(論)岩網健太郎
 「柑橘類の成分の抗菌・抗真菌作用と相乗効果」
 [益田高]○(高)宮田凜美・○(高)田原陽愛・○(高)三浦凪人・
 (論)松川 均
 「ラウリル硫酸ナトリウムと細菌の関係について」
 [玉川学園高]○(高)北村うらら・(論)渡辺康孝
 「オリーブを用いたポリフェノールの保存方法」
 [玉島高]○(高)高橋蒼騎・○(高)稲田美桜・○(高)伊藤千紗季・
 ○(高)仲 沙月・○(高)藤原 救・(論)白神憂樹
 「酸化還元電位からアリシンの抗酸化力を求める研究」
 [横手高校]○(高)高久真緒・○(高)大野咲咲・○(高)小原蒼士・
 ○(高)高橋光生・(論)細谷 進・(論)岸 嘉之
 「野菜由来の界面活性剤の有用性」
 [玉川学園高]○(高)増田乃愛・(論)木内美紀子
 「野菜くずからとるベジプロスのグルタミン酸含有量の分析」
 [玉島高]○(高)村田潤哉・○(高)山田一輝・(高)内藤佑介・
 (論)大野祐貴
 「廃棄物を活用した吸水性ポリマーの作成」
 [姫路東高]○(高)前川 司・○(高)永井 翔・○(高)石井 漸・
 ○(高)富士佳蓮・○(高)大加戸蒼汰・○(高)飯田凌央・
 (論)川勝和哉
 「磁性流体に加える外部磁力と形成されるスパイク底面の形状の関
 係を解明する方法の提案ーヘレシヨウセルを用いる方法ー」
 [宇部高]○(高)井上大輔・○(高)上野瑠咲・○(高)河内想来・
 ○(高)河崎愛音・○(高)戸川夢椛・○(高)中川颯斗・
 ○(高)藤井莉子・○(高)堀 結月・(論)泉 純也・
 [山口大](大)安達千華・(正)吉本則子
 「食品中に含まれるエクソソーム様粒子の探索と簡便な回収方法の
 検討」
 [水沢高]○(高)阿部実和・○(高)梅原未悠・○(高)千田里瀬・
 ○(高)中澤美賀・(論)高橋一成
 「美味しい香りを作ろう」
 [玉川学園高]○(高)佐藤裕心・(論)木内美紀子
 「リボンベジタブルの効率化」
 [生野高]○(高)中野郁代・○(高)岡田瑠里・○(高)奥山夏帆・
 ○(高)亀井麻理菜・(論)信谷 敦

「プラナリアの好物と化学走性」
 〔下関西高〕○(高)米谷理央・○(高)濱村莉子・○(高)福田紘加・
 ○(高)渡辺真奈・(論)岡田省吾
 「ベジタブルでサステナブル」
 〔生野高〕○(高)神野銀河・○(高)木田千咲・○(高)横山純也・
 ○(高)木澤茜詞・○(高)三井 茜・(論)吉田禎張
 「鶏肉は火が通りにくいのか？2」
 〔生野高〕○(高)堤 悠真・○(高)分部蒼大・○(高)半田耕太郎・
 ○(高)澤井 颯・(論)信谷 敦
 「さまざまな甲虫目における後翅と形態の関係」
 〔秋田高〕(論)金野寛之・○(高)米谷 空・○(高)大友颯太・
 ○(高)仲山千尋・○(高)古屋萌花・○(高)堀川芽依
 「AIイオンによるアブラナ科植物の突然変異生成とSiによるAI障
 害の回復」
 〔玉島高〕○(高)浅野広翔・○(高)平井海成・○(高)三門 幹・
 (論)村田好史
 「太陽光を利用した染料の光触媒脱色」
 〔葦崎高〕○(高)飯野日陽・○(高)神沢玲奈・(論)竹田夏実
 「プラスチック廃材を利用したコンクリートの開発」
 〔尾瀬高〕○(高)水野早絢・(論)荒井裕二
 「尾瀬ヶ原の水質調査～過去11年分のデータから何がわかるのか～」

〔福岡城東高〕○(高)國武樟吾・(論)佐々木光将
 「緑藻(アナアオサ)による賞味期限切れ醤油の処理～アナアオサの
 通年利用を目指した人工培養～」
 〔大館鳳鳴高〕○(高)齋藤睦月・○(高)佐藤愛華・
 ○(高)阿部星空・○(高)菊地一志・○(高)田村大雅・(論)鈴木修子
 「秋田木炭を用いた環境浄化用吸着剤の研究」
 〔松山中央高〕○(高)高田蒼空・○(高)坪内寛汰・○(高)有木翔吾・
 (論)下田 愛
 「炭酸カルシウムが海洋酸性化に与える影響」

第27回化学工学会学生発表会実行委員会

長尾大輔(東北大学 委員長, 執筆者)
 孔 昌一(静岡大学)
 庄司 良(東京工業高等専門学校)
 田中 学(九州大学)
 中川究也(九州大学)
 花田信子(早稲田大学)
 福村卓也(一関工業高等専門学校)
 藤井貴敏(米子工業高等専門学校)
 山内紀子(茨城大学)
 若林里衣(九州大学)